

解答編

Q1.

答え：③

市川房枝は、1893年5月15日、愛知県中島郡明地村（現尾西市）で生まれました。

写真の①は平塚らいてう（1886～1971）、②は与謝野晶子（1878～1942）で、房枝と同じ時代を生き
た女性たちです。

Q2.

答え：②母・たつ

母・たつが、夫の暴力に耐えながら「女に生まれたのが因果だから」と嘆いていた姿は、房枝に深い疑
問と怒りを芽生えさせました。なぜ女性は不当に抑圧されるのか——その理不尽さへの問題意識こそ
が、後の女性地位向上運動への情熱を支える原点となりました。

Q3.

答え：①農業

房枝の父・藤九郎は次男でしたが、兄が「勉強をする」と家を出たため、跡取りとなりました。商売
などがうまくいかず、その後、7～8反ほどの田畑を耕し、養蚕も行う農夫として生計を立てました。

Q4.

答え：①教育熱心な父親

父・藤九郎は、自分が無学問のせいで百姓に甘んじているとの思いから、子どもたちには熱心に教育
を受けさせました。この「農家でありながら教育に強い関心を持つ父」の存在は、房枝が女性の自立
や教育の重要性を強く意識する背景の一つとなりました。

Q5.

答え：①14歳

高等小学校を卒業した房枝は進路に悩み、当時アメリカで苦学中の兄・藤市のもとへ行くことを決意
します。役場に渡米願いを提出したものの、未成年であることを理由に許可が下りませんでした。こ
の時すべてを一人で実行しようとした房枝は14歳の少女でした。

Q6.

答え：③平塚らいてう

小学校教員、新聞記者を経て 25 歳で上京した房枝は、通っていた英語塾で「新しい女」平塚らいてうと出会います。らいてうとともに 1919 年に日本初の女性団体として結成した「新婦人協会」では、女性の政党加入や政治活動への参加を目指して法改正に取り組みました。

Q7.

答え：②アメリカ

1921 年、読売新聞の特派員として渡米した房枝は、シアトル、シカゴ、ニューヨークと、ベビーシッターなどをしながら婦人運動を見てまわりました。女性が政治に参加する権利を獲得した直後のアメリカで、有権者への政治教育の重要性を痛感することとなりました。

Q8.

答え：①婦人参政権

婦人参政権とは、女性が直接または間接的に国や地方自治体の政治に参加するための権利のことで、具体的には①国政参加の権利、国会議員の選挙・被選挙権（参政権）。②地方政治参加の権利、地方議会議員の選挙・被選挙権（公民権）。③政党結社加入の権利（結社権）を指します。

同じ意味で「婦選^{ふせん}」という言葉も生まれました。

Q9.

答え：③婦人参政権獲得に専念する

ワシントンの世界社会事業大会で出会ったアリス・ポールは、房枝に「女性の権利は、女性自身が立ち上がって勝ち取らなければならない、それに専心するべきだ」とアドバイスしました。その言葉は房枝に深く刻まれ、後の日本での活動に大きな影響を与えました。

Q10.

答え：①与謝野晶子

「婦選^{ふせん}の歌」の歌詞は、「同じく人なる我等女性 今こそ新たに試す力 いざいざ一つの生くる権利 政治も基礎にも強く立たん」（一部抜粋）と、晶子の文学的感性によって婦人参政権への情熱が力強く表現され、参加者の士気を高めました。山田耕筰はこの歌の作曲者です。

Q11.

答え：③1945年

1945年12月17日、改正衆議院議員選挙法が公布されたことによって、婦人参政権が実現しました。これに先立ち、房枝は新日本婦人同盟を立ち上げ、全国を奔走して政治教育に取り組みました。

Q12.

答え：③選挙人名簿に市川房枝の名前が載っていなかった

房枝は初の女性参政選挙で投票できませんでした。戦後の混乱期で住民登録が間に合わず、「選挙人名簿」に房枝の名前が記載されていなかったためでした。婦人参政権獲得運動の先頭に立って活動してきた房枝にとっては皮肉な出来事でした。

Q13.

答え：③39人

1946年4月10日、戦後初の第22回衆議院議員総選挙が行われ、39人の女性議員が誕生しました。しかしその後、女性の議員は減少し続け、2005年の第44回衆議院議員総選挙で43人の女性が当選するまで、この時の人数を超えることはありませんでした。

Q14.

答え：①「出たい人より出したい人」

房枝は、自分から名誉や権力を求めて出馬する人ではなく、周囲から“ぜひこの人に政治を任せたい”と推される人物こそが政治家にふさわしいと考えていました。その理念を端的に表したのが「出たい人より出したい人」というスローガンです。

Q15.

答え：③60歳

1953年、周りからの強いすすめを受け、無所属で東京地方区から参議院議員に立候補した房枝は、2位当選を果たし、国会議員となりました。かかった選挙費用は26万1,038円、決められた選挙費用の16.7%にとどまりました。

Q16.

答え：②25年

60歳で初当選した房枝は、3期連続で当選した後、1971年4回目の選挙では落選しました。しかし1974年には全国区から立候補して2位で、1980年には1位で当選、国会議員として女性の地位向上や政治の浄化に力を尽くしました。

Q17.

答え：①家庭科

1974年、房枝は「家庭科の男女共修をすすめる会」の発起人となりました。家庭科を男女ともに必修にすることを強く求め、その後1990年に共修が実現しました。家事・生活能力は男女とも備えるべきだという考えが教育の場で具現化し、男女共同参画を進める重要なターニングポイントとなりました。

Q18.

答え：①平和、平等、平等、平和

1980年、「国連婦人の10年中間年日本大会」で、房枝は「平和なくして平等なく、平等なくして平和なし」と訴えました。戦争や暴力のない社会（平和）でなければ、真の男女平等は実現せず、平等がなければ真の自由も生まれえない、という彼女の信念を端的に表した言葉です。

Q19.

答え：②「権利の上に眠るな」

今、当然の権利であると考えられがちな参政権は、房枝をはじめとする数々の先人が人生をささげ、苦難を乗り越えて勝ち取ったものです。「権利の上に眠るな」。これは、私たちが権利を当然視せず正しくしっかり使わなければならないという強いメッセージです。

Q20.

答え：②現役の国会議員だった。

1981年1月16日、房枝は心筋梗塞で倒れて入院し、治療の甲斐なく2月11日に永眠しました。最後まで現役の国会議員として第一線で活躍を続けた市川房枝。87歳9か月の生涯でした。